

教育委員現地研修会

国指定天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」視察



宝蔵寺沼



食虫植物ムジナモ



学芸員からムジナモ実験区での説明



ヨシ刈り後の沼を視察

三田ヶ谷小学校でのムジナモ増殖活動の視察研修

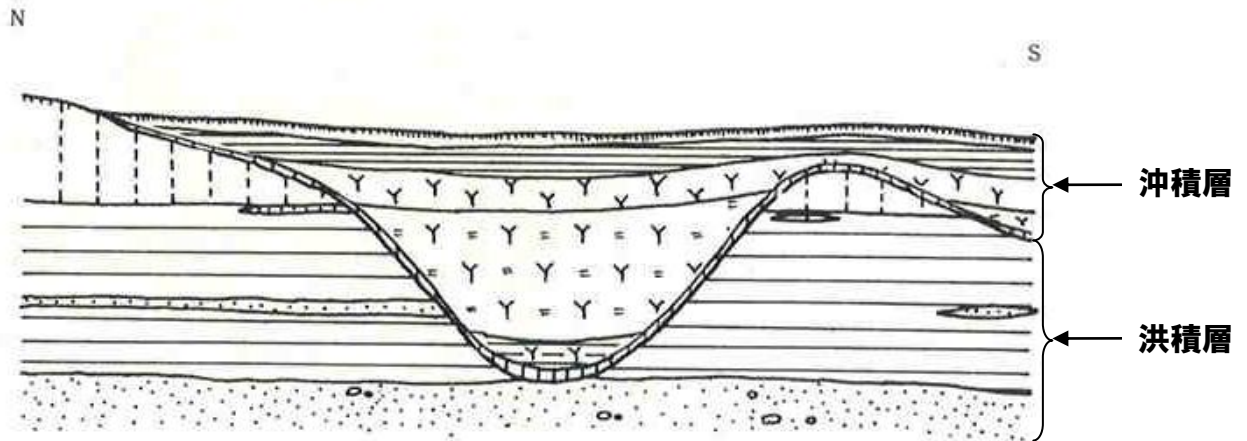


学校長から小学校内の観察池で説明

国指定天然記念物「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」

1 “宝蔵寺沼”以前

→“沼”より前は、どんな場所だったのか？



宝蔵寺沼模式断面図(『ムジナモとその生育環境』1982 羽生市教育委員会 p265)

・流水により浸食されてできた谷が、関東造盆地運動によって沈んでいく。この谷の部分が埋まっていくことで、低湿地が作られた。

2 堀上田(ほりあげた)

→なぜこんな形なのか？



通常時



冠水時

・江戸時代に入ると、低湿地を新田として開発するようになった。現在の宝蔵寺沼周辺の地域では、堀上田としての開発が進んだ。

3 ムジナモの発見

→いつ、どこで見つかったのか？

・羽生市域内で初めて発見されたのは 1921(大正 11)年の平島耕地。その後昭和 20 年代には広く一帯に分布していたとされるが、昭和 30 年代後半には宝蔵寺沼が唯一の自生地となっていた。

4 これまでの保護活動

→どんな課題があり、どんな対策を取ってきたか？

・課題① ムジナモの消失…ムジナモ放流

・課題② 水質汚染…井戸水注水、底泥浚渫工事等

・課題③ 越冬後の生育…冬芽浮上後の水質管理、食害魚等対策

5 現在とこれから

→いまどんな状態で、どんな未来を目指しているか？

・課題③の対策を継続中。“生物多様性”をキーワードに、宝蔵寺沼の環境全体の回復を目指す。連続越冬 3 年目で、このまま軌道に乗せれば増加が見込める。

1921 (大正 11) 年 9 月 平島耕地西北隅で速水義憲氏が発見

1949 (昭和 24) 年 2 月 三田ヶ谷地区のムジナモ県の天然記念物に指定

1966 (昭和 41) 年 5 月 4 日 「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」国指定天然記念物として公示、8 月に大雨によりほとんど流出

1969 (昭和 44) 年 4 月 ムジナモ返還キャンペーン開始

1974 (昭和 49) 年度 埼玉県教育委員会、浦和市の“野田のサギおよびその繁殖地ともに緊急調査

1976 (昭和 51) 年 4 月 国庫補助で 6 年間にわたり生物・化学・地質の総合調査を実施し、自生地復元への提言を受ける

1983 (昭和 58) 年 10 月 2 日 さいたま水族館開館

1983 (昭和 58) 年 10 月 12 日 羽生市ムジナモ保存会再発足

1987 (昭和 62) 年度 国庫補助で提言を実行する具体的事業を 4 年間にわたり実施

1992 (平成 4) 年度 県費補助での保護増殖事業を 3 年間実施

1996 (平成 8) 年度 国指定 30 周年を記念し『ムジナモ保護の歩み』を刊行し特別展を開催

1999 (平成 11) 年 6 月 自生地のムジナモ盗難にあい大々的に報道され、防人フェンスを設置

2002 (平成 14) 年度 自生地の環境整備事業を実施

2003 (平成 15) 年 11 月 3 日 はじめて自生地公開事業を実施

2006 (平成 18) 年度 国指定 40 周年を記念し特別展を開催

2007 (平成 19) 年度 除草を頻繁に実施

2009 (平成 21) 年度 自生地の保存管理計画の策定を目指し、国庫補助により 5 カ年の計画で自生地及びムジナモの緊急調査を開始

2012 (平成 24) 年度 緊急調査 4 年目。水質及び水環境・地質・土壌・遺伝子・水生動物・昆虫・プランクトン・植物の各項目の調査と放流実験を継続し、これまでの 3 年間の調査の成果をフィードバックしている